

フロンティアソフトマター開発専用ビームライン(FSBL) 産学連合体の理念と目的

1. FSBL 産学連合体の目的

本連合体は、2008年2月に成立したFSBL産学連合体の協定書に基づき、SPring-8のFSBL専用ビームライン(BL03XU)を利用して、高分子科学のさらなる発展、ソフトマター・高分子新素材の開発を中心とする産業への高度活用、放射光利用技術の高度化、を目指した研究を、学と産が協力して展開することを目的としている。

(注) SPring-8は、大型放射光を利用した科学技術に関する試験研究と物質・材料の分析・評価技術の高度化のために、国民の税金により建設・運営されている大型施設であり、その成果については公開が原則である。(航空電子等技術審議会20号答申[添付資料]参照)

2. 産学連携の意義

ソフトマター・高分子製品の研究開発と製造プロセスの技術革新のためには、その階層構造をナノ・メソレベルから明らかにするソフトマターに特化した専用ビームラインが不可欠である。この共通認識のもとに、ソフトマター分野の産と学の連携によって、世界最高レベルのSPring-8放射光源の性能を最大限活かした、ナノ薄膜・表面構造計測システムと、各種プロセスのその場計測も可能なWAXS/SAXS同時計測システムが構築された。運営も、産学連携で志を高く持ち、効果的に行う。

3. 企業グループの役割

FSBL産学連合体を構成する各企業グループは、事業者と学術研究チームとからなり、事業者はFSBLの建設と運営のための財政を負担する。各企業グループは対等・平等の立場で連合体の運営に参加する。各企業グループの事業者は、各企業グループ内の学術研究チームの協力の下に、ソフトマター・高分子新材料開発のためのFSBLを利用した基礎・応用研究を推進し、その成果を、新商品の開発や製造プロセスの革新、および知財形成や論文発表により、納税者へ還元するようにつとめる。

4. 学術メンバーの役割

学術メンバーは、所属する各企業グループにおいて本連合体の目的遂行のための共同研究の発展に寄与するとともに、FSBLの理念と目的を実現するために、学術の立場から、高分子科学の長期展望に基づいた研究の提案と実施をおこない、それを通して公に成果を還元する。

